

## 環境基本問題懇談会 報告書の概要

### 環境政策とその状況の変化

#### 1 1990年代以降の経済・社会の状況の変化

経済の変化： 成熟した経済構造への転換、国際経済の一体化 等

社会の変化： 少子高齢化、大都市とそれ以外の地域の格差拡大  
価値観の変化、NPO活動の活発化 など

#### 2 環境問題と取組の変化

環境問題の重大さが明らかに

持続可能な社会づくりの定着、個別規制から総合管理へ  
国から地方への行政の役割変化

### 今後の環境政策のあり方

#### 1 環境政策を進める基本的な視点

##### (1) 経済・社会づくりの基本理念としての持続可能な社会づくり

持続可能な社会づくりの観点から経済社会を見直し

環境の枠組みを認識した経済社会、

世代・地域を越える責務、

その実現のためのあらゆる関係者の参加、

を基調とする持続可能な社会へ

##### (2) 「環境と経済の好循環」につながる経済の構築

環境に取り組むことが経済的にも好ましい経済構造へ

公平で明確なルールの設定、

市場の力の活用、

経済主体の社会的責任の再認識、

目標・ビジョンの提示、

を重視

(3) 市民、NPO、企業などが進んで環境に取り組む地域、社会、生活のあり方

・地域・社会・日常生活における自発的な取組を促進する枠組みづくり  
・環境、福祉、地域開発など多様な社会的価値の一体的追求

(4) 環境を生かした国土・空間利用への転換

・環境をいかした地域づくりの観点から、国土・空間利用を再構築  
・環境、防災など多様な価値が実現される街づくり  
・共通の利益のための私有地利用のあり方の検討

(5) 科学的不確実性のある課題への予防を基本とした対応

・科学的に未知である問題への予防的対応、順応的アプローチの重視  
・調査研究による不確実性の低減  
・科学的知見の進展、地域特性に合わせた対策の見直し

(6) 環境によいライフスタイル・価値観の実現をめざす環境教育、人づくり

・スローライフなど環境によい生活価値を教育で実現  
・学校、地域、家庭、企業での環境教育の推進  
・環境を学んだ学生や技術者の社会での活躍の場の確保

(7) 地球、国際社会の一員としての環境問題への取組

・地球環境問題解決への各国個別利害を超える合意づくり  
・経済の国際化を踏まえた国内の取組構築  
・日本の経験、文化を踏まえた積極的発信、グローバル・スタンダードづくりへの参画  
・国レベルの協力から、地方・民間の間の交流へ  
・国際的研究枠組みへの積極的参加

## 2 環境政策の立案、実施に求められる手法・スタイル

(1) 戦略・ビジョンの提示、分かりやすい目標の設定

・計画期間 5年程度の計画に加え、数十年後を見通した超長期戦略の策定  
・具体的な目標・指標の設定の検討  
・環境政策の目標としての環境基準のあり方の検討

## (2) 連携・協力に基づく国と地方との新しい関係構築

地方分権の一方で、地球環境問題、広域環境問題など国と地方の連携は不可欠に  
国と地方が協力・連携する新しい関係の構築を目指す

## (3) 民間と行政とのパートナーシップによる施策の立案、実施

- ・NPO、企業、研究者と行政との間の役割分担の明確化
- ・パートナーシップの重視、民間の参加のためのルール構築

## (4) 情報の共有と分かりやすいコミュニケーションの実現

- ・ 基本的な情報の整備
- ・ 情報と対策へのフィードバック
- ・ 分かりやすい戦略的コミュニケーション

## (5) 環境を重視した科学技術・研究開発の政策立案、評価

- ・環境問題への取組みは、21世紀の科学技術開発の原動力
- ・エコデザインなど製品設計での技術の重要性
- ・予測・予防のための科学の充実が環境政策の基本。研究開発の評価に反映

## (6) 経済的手法の推進

- ・市場に環境の視点を盛り込む手法として、経済的手法を導入

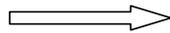
### この報告書を受けての今後の取組

懇談会の成果は、基本計画の見直し作業や今後の政策づくりに反映。  
大きな課題については、引き続き検討を求める。

**参考** (懇談会資料より)

**様々な人間活動と環境との関わり**

生活を豊かにするための様々な価値

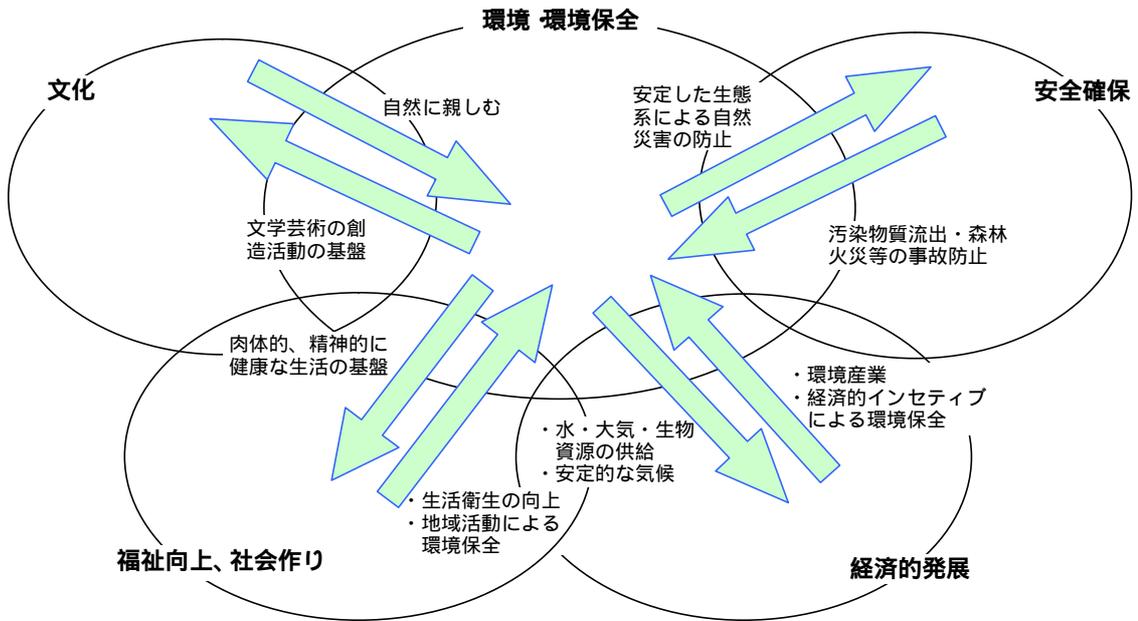


環境やその保全のための活動は、こうした価値を実現するための人間活動と相互関連するもの

人の生活を豊かにする価値の例

- |           |                         |
|-----------|-------------------------|
| 安全確保      | 生命,財産への侵害の防止            |
| 福祉向上,社会作り | 人間らしい生活のための社会的・地域的基盤    |
| 経済的発展     | 物質的な豊かさの追求              |
| 文化        | 個人/地域/国における精神的財産        |
| 環境,環境保全   | よりよい環境の中で生きる/生存,発展の前提条件 |

相互に関わり合う



**環境保全手法の進展**

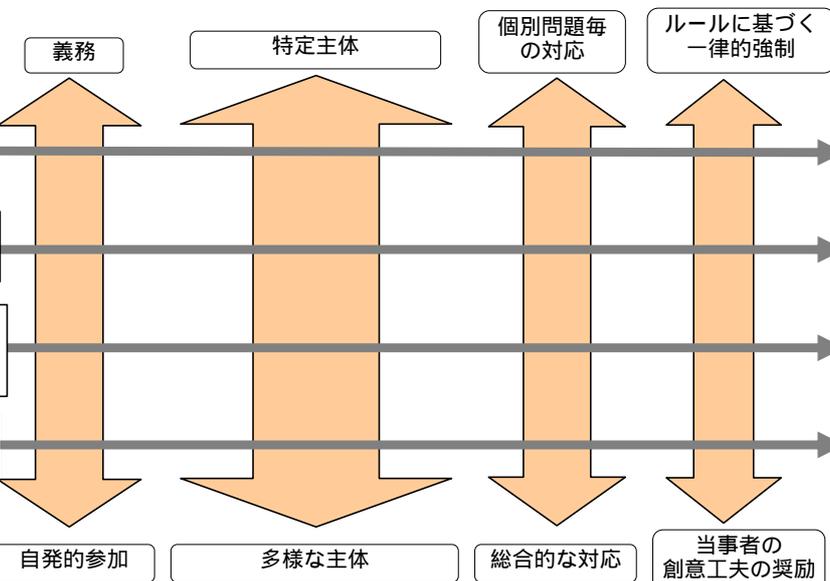
課題の1960年代：SOxによる喘息、カドミウム・水銀による中毒、個別の開発行為による自然破壊

典型7公害、自然の減少

多様な問題への対応 = 汚染、化学物質、廃棄物・リサイクル、生物多様性、地球環境問題、環境教育

取組：被害救済 / 個別汚染の防止 / 問題の未然予防 / 積極的な環境の創出・再生

取組の 義務 自発性・自主性 個別問題毎の対応 総合的な対応



- 大気汚染、水質汚濁
- 化学物質
- 廃棄物・リサイクル
- 生物多様性
- 地球環境問題
- 環境教育